

12/18 (月) 毎日 26 面

先人の思い再確認

七堂伽藍跡 建碑60周年式典

茅ヶ崎

かつての役所跡とされる茅ヶ崎市下寺尾の「下寺尾官衙遺跡群」が2015年に国史跡に指定される58年前の1957年、地域に古代寺院があることを信じた地元住民や研究者が建てた「七堂伽藍跡」碑の建碑60周年を祝う式典が16日、同碑近くであり、建立時の式典出席者を含め関係者ら約200人が先人の思いを再確認した。

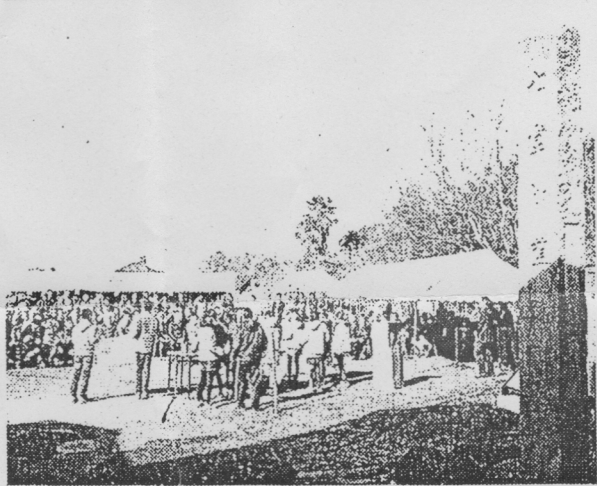
碑は高さ3・25メートルで、地元住民や郷土史家ら142人が発起人となって建てた。碑の裏には「建碑の趣意は貴重な資料の保存と今後研究家の訪れるのを待つため」などあり、

遺跡の存在が明確ではなかった当時に、将来に確認されることを願う内容となっている。その後、考古学的調査などが行われ、建碑から58年後に国史跡指定されて先人の思いが結

実した。

式典では服部信明市長が「先人の地域への気持ちのひとつになっ
て、国史跡に指定された。我々も保存、復元して後世に伝えたい」と話し、建立時の式典に出席した男性も「おめでとございます」とあいさつした。

【渡辺明博】



碑のそばで行われた記念式典では、地元小学生の研究発表も行われた。茅ヶ崎市下寺尾で